

度親しく其製作に接して、此人の理論と實際と相伴ふてゐることを知つた。次に Sir Edwin Landseer は有名な動物畫家であるが、其獅子のスタデー二面は殊に深き感動を起さしめた。Gainsborough の作は二十四枚あつて、孰れも大作、其人物畫は親むべし、風景畫には一種の形式があつて、今日の眼から見たら物足らぬ點も多いが、又學ふべき處は尠くない。John Crom の風車も美事な出來である。

第二十二室はターナーギヤラリーとの表札があつて、廣き室内は氏一個人の作で充たされてゐる、大作八十余枚、孰れも陸離たる光彩を放つてゐる。自分は白狀する、初めて此室に入つた時は呆然として何を見てゐるのか判らなくなつて仕舞つた、天才にあらざれば天才の作は解し得ぬものであらうと思つた、日本に居た時寫眞版や三色版で、ターナーの色がドーの感じがドーのと云つたるが今更耻かしくなつた、それと同時に、自分等と一しよに其作を親しく見せぬくせに、ターナーを品騰してゐた人達に一度見せてやりたく思つた。奇警なる自然の觀察、想像も及ばぬ其輕淡にして美はしき色彩、不可思議なる描法、何處を捕へて感心してよいのか、素養深からぬ身で初めてターナーの大作に接して、それがよく解されたといふ人があつたらそれは自から欺くものであらうと迄思つた、想ふにかゝる繪は看者の觀賞力に比例して其美術的價值を増すべきものであらう。階下には猶ターナーギヤラリーの第二第三の室がある、此處は皆水彩畫のみにて、スケッチやらスタデーやら大小六百餘點の

多數が蒐集されてある、密なるもあり粗なるもあり、何れを見ても氏の才筆と勉強の力の偉大なる事が覗はれる、世人はターナーを以て大なる天才なりといふ、併し此大なる天才は實に又大なる勉強家であつた事を忘れてはならぬ。

これにて國民畫堂の梗概は盡きた、このやうな大畫堂はいつ迄見てゐても又何度見ても飽きるといふ事はない、此樂園に朝夕自由に出入し得るロンドン市人は何といふ幸福であらう。

△ △ △

繪畫に於ける眞の新派は何派にある、西洋畫是なり。敢て問ふ、西洋畫はおのづから西洋畫なり、これをして日本畫の新派といふべきか。然り。西洋より傳へたるよりいへば、即ち西洋畫なり、繪の具の同じきよりいへば、即ち西洋畫なり。然れども日本人の畫くに至りては、既に日本畫なり。日本人の思想を發表するに至りては、既に日本畫なり。但模倣の域を脱せざるに於ては、未だ日本畫と成り了らざるのみ、鎔化陶冶、敵の銃砲を奪ひてわが有と爲せば、是れ元來の己が武器に同じ。繪の具の如きは萬國通有のもの。文學に於ける國語の墻壁と選を異にす敢て區々としてその異國に拘泥する勿れ、況や傳統の内外を論らふが如き死兒の齡を數ふるとをや。(文學博士藤岡東圃氏「日本畫の將來を思ふ」中央公論)

* * * * *